平成２９年度全国学力・学習状況調査結果について（報告）

４月に実施された、平成２９年度全国学力・学習状況調査についての本校の結果および分析（概要）について報告いたします。

１　調査の概要

（１）調査の目的

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
○学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
○以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査の対象

中学校第３学年の全生徒

（３）調査の内容

①教科に関する調査（国語、数学）

主として「知識」に関する問題Ａ	主として「活用」に関する問題Ｂ
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

②質問紙調査

生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査 （例）国語の勉強は好きですか，授業の内容はどの程度分かりますか，一日にテレビを見る時間，読書時間，勉強時間の状況　など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）学力向上や学習の定着に向けた取組，習熟度別少人数指導，教育の情報化，教員研修，家庭・地域との連携の状況　など

（４）調査の方式

悉皆調査

（５）調査日時

平成２９年４月１８日（火）

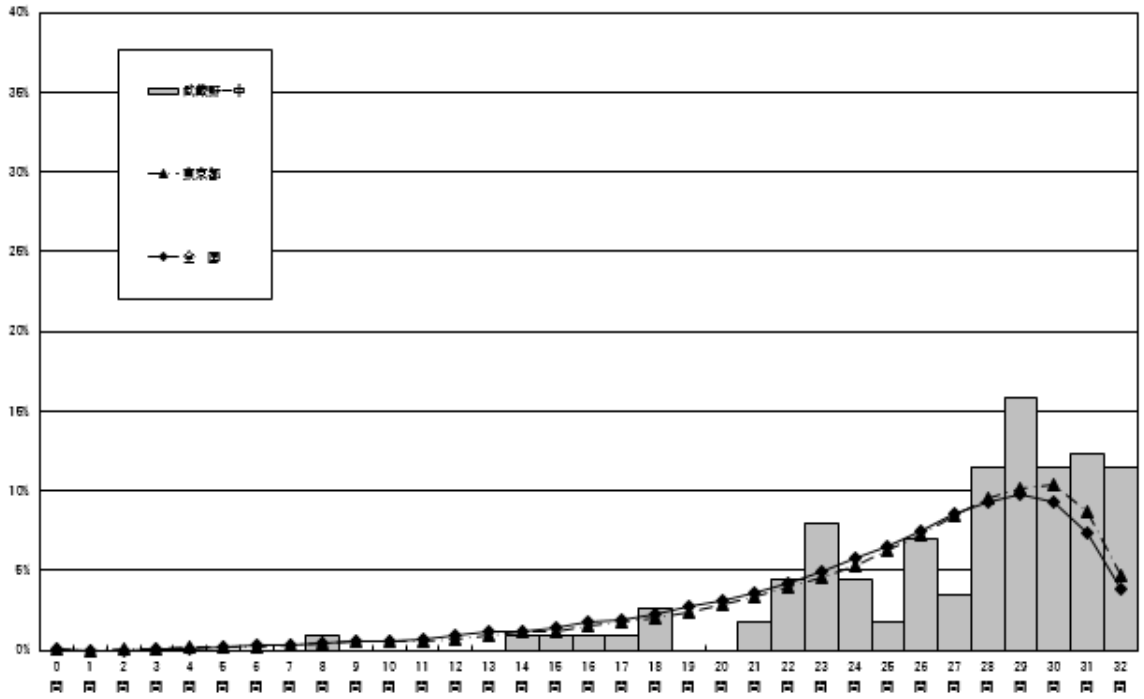
国立教育政策研究所HPより引用　http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html

２　平均正答率

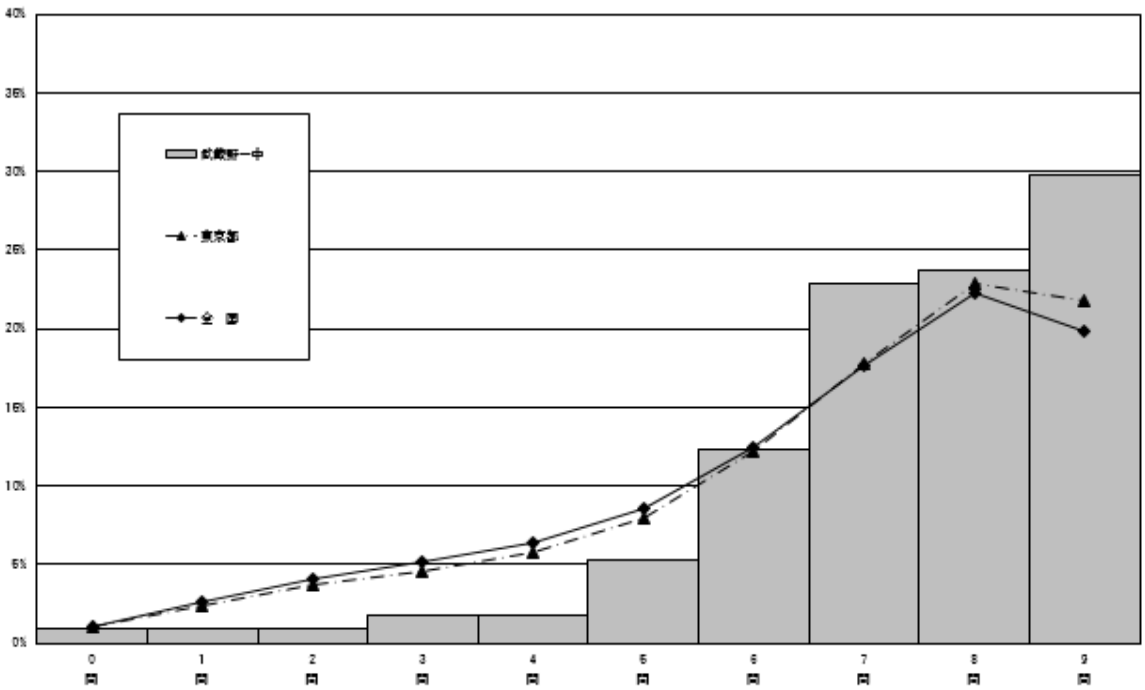
	国語 A 平均正答率(%)	**国語 B** 平均正答率(%)	**数学 A** 平均正答率(%)	**数学 B** 平均正答率(%)
武蔵野市立第一中学校	85.0	81.0	75.0	59.0
東京都	79.0	74.0	66.0	50.0
全国	77.4	72.2	64.6	48.1

３　国語　合計正答数の人数分布（横軸：正答数　縦軸：割合）

＜国語 A＞

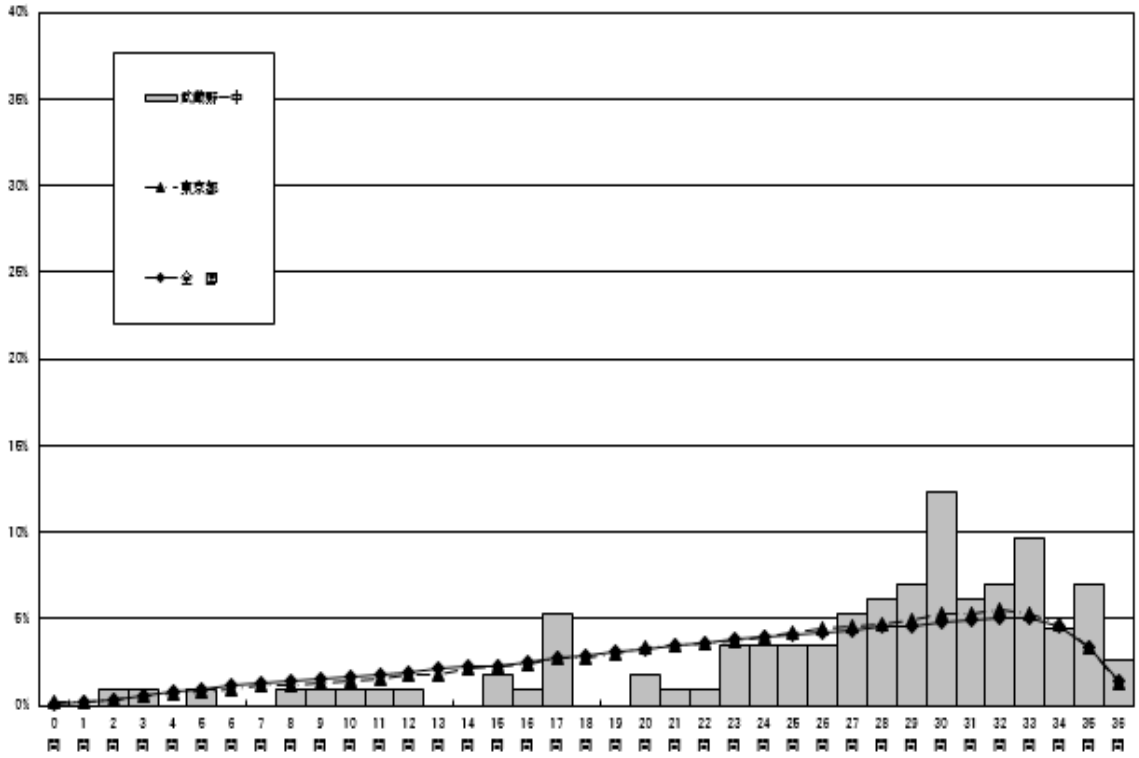


＜国語 B＞

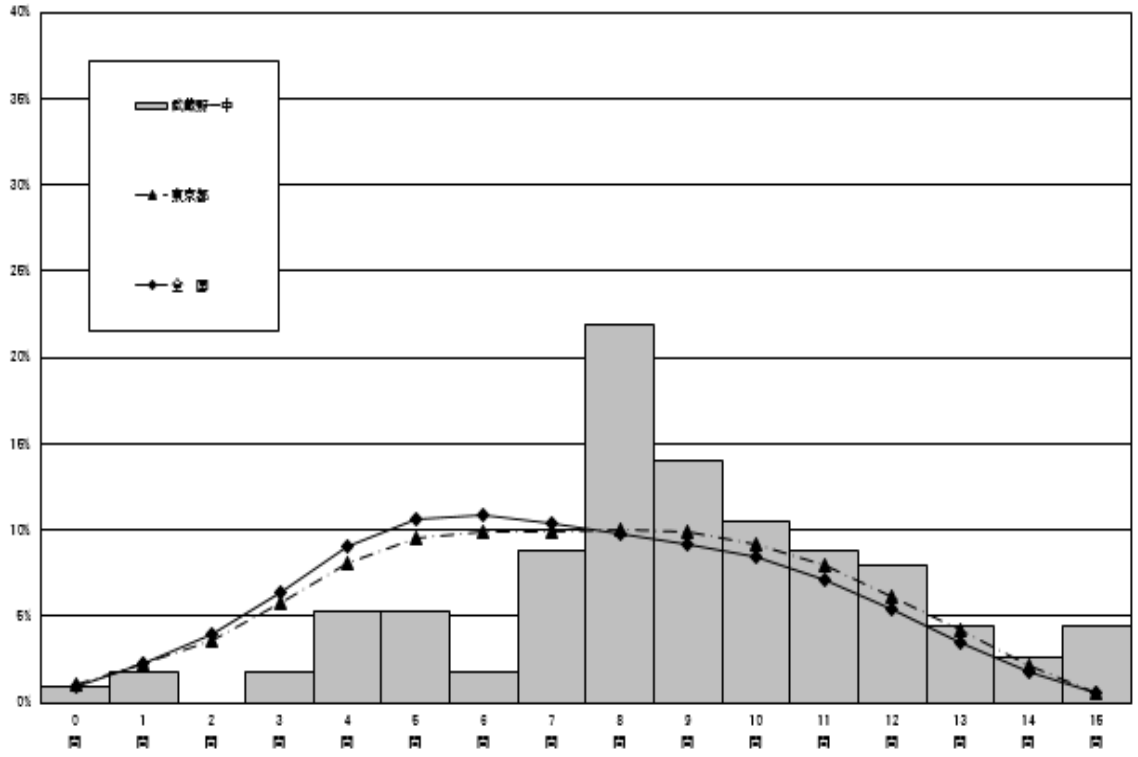


4　数学　合計正答数の人数分布（横軸：正答数　縦軸：割合）

＜数学 A＞



＜数学 B＞



５　本校の第３学年生徒の調査結果の分析（概要）

今回の全国学力･学習状況調査では､学習指導要領に示された目標や内容の実現状況を､

『A：主として「知識」に関する問題』　『B：主として「活用」に関する問題』

を用いて調査しました。また、各教科の内容は、以下の領域・観点から調査しました。

国語 ４領域	 ５観点	数学 ４領域	 ４観点
話すこと・聞くこと	国語への関心･意欲･態度	数と式	数学への関心･意欲･態度
書くこと	話す・聞く能力	図形	数学的な見方や考え方
読むこと	書く能力	関数	数学的な技能
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	読む能力	資料の活用	数量や図形などについての知識・理解
	言語についての知識･理解･技能		

（１）データから見る全国平均との比較

全国及び東京都の平均正答率と比較すると、A問題では、国語約６～８ポイント、数学約９～１１ポイント、それぞれ上回っています。B問題においては、国語約７～９ポイント、数学約９～１１ポイントそれぞれ上回るという結果になりました。また、学習指導要領に示された目標や内容の実現状況では、国語・数学とも全ての領域・観点において全国及び東京都の平均正答率を上回っています。

国語では、A問題・B問題を通して、どの領域においても全国平均の正答率を４～10ポイント程度上回っていました。語句の意味を理解することを問う問題では、一部に全国平均を下回る問題もあるものの、全体としては正答率が高くなる傾向がありました。一方で、「文脈に即して漢字を正しく書く」や「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」などの項目では正答率が低めであった。漢字の意味を理解したり、語句の意味を理解し正しく使うことを意識して、身に付けていくことが大切であると考えられます。

数学では、どの領域・観点においても、全国平均を９～11ポイント程度上回っていました。領域別に比較すると、関数・資料の活用の正答率が下がる傾向にあるものの、概ね、まんべんなく正答することができていました。正答率が低い問題を分析すると、「扇形の弧の長さ」､「関数の意味」「事象を数学的に判断する」の部分であり、１年生で学習したことを忘れていたり、記述式の問題での部分が低いと考えられます。

（２）合計正答数の人数分布から見る分析

国語では、全体として得点分布の山が全国平均からやや高めにスライドした形となっています。低得点者の割合が比較的小さいことも特徴といえます。一方で、特にA問題については全体の正答率も高いため、この結果からは高得点者層の学力が全国と比較してどうか、ということは判断しづらいと考えられます。

数学では､「知識」､「活用」に関する問題とも全国平均の分布よりも高い位置に大きな山があります。しかし、A問題では５割、B問題では３割のところにもう１つ山があるので、全体的に底上げすることが今後の課題である。

以上が､本校第３学年生徒の本年度の結果を分析した概要です｡今回の調査結果をもとに、各教科の成果と課題を学習指導に活かし、さらなる学力向上に努めます。